

【今年度の各種調査から見た傾向・課題】

【傾向・課題に基づく次年度における検討の方向性】

公共交通の利用傾向

- 町内循環バスの利用者数は令和5年度に9万人を超え過去最大を記録した
- 町内循環バスは8月に利用者数が最大で、特に東・南廻り線では閑散期に比べ1ヶ月あたり約7,000人の増加がみられる
- 町内循環バス（西コース、北廻り線）では平日の1便目が突出して多く、通学利用のほか、買い物など日常的な利用が多い傾向がみられる
- 町内循環バスの利用頻度では町民に比べ、別荘所有者の利用頻度が多い傾向もうかがえる
- 町民等へのアンケート結果から、町内循環バスの今後の理想的な形態では、路線バスを主体に望む回答が最多で、そうした理想的な形態の実現に向けた町の財政負担は、もっと増やしても良いとの回答が最多となっていた
- 町内循環バスの主な利用目的は町民の生活利用だが、東・南廻り線では観光利用者も混在している
- よぶのる軽井沢の実証運行中の利用傾向から、県外利用者ではハルニレテラスなどへの移動が多く、相乗りも多かった一方で、県内利用者では目的地が分散し、利用距離が長く、相乗りも県外利用者に比べて少ない傾向がみられた
- タクシーの利用は週末の夕方に集中し、主に別荘所有者や観光客が利用していると推測される
- 町内循環バス（東・南廻り線）、草津温泉～軽井沢駅、急行塩沢湖線などが軽井沢駅で結節し、主に観光利用者の乗降が非常に多い
- バス利用者からの要望として、鉄道への乗り継ぎの改善が寄せられている
- 1周が長いバス路線では、繁忙期には交通混雑により大幅な遅延が発生していた

公共交通を利用したいが利用できていない状況

- 町民の3人に1人は公共交通空白地に位置し、特に千ヶ滝西区や茂沢区では高齢化率も高い
- 町民等へのアンケート結果で、町内循環バスの今後の理想的な形態として需要の大小に応じて路線バスとデマンド型を組み合わせた形態を望む回答も見られるほか、公共施設等の関係者が把握する移動ニーズとしても、「よぶのる軽井沢」のようなデマンド運行が求められている
- 町民の移動ニーズでは、町内での移動に加え、県内の近隣市町との通勤・通学や佐久市や御代田町への通院・買い物も多い

公共交通を利用していない状況

- 町民の自動車保有台数や65歳以上の運転免許保有者数は増加傾向にある
- 町民等の通勤・通学や通院、買い物などにおける移動手段は、大部分が自動車による移動であり、町内循環バスを利用しない理由では「バス以外の移動手段がある」が大多数を占める
- 小中学生の普段の通学のほか、休日の外出においても家族等の送迎が多く、送迎理由としては「安心・安全だから」が最多となっていた

公共交通維持に向けた課題

- 路線バスの運行経費の増加が続いており、今後の維持費の確保が懸念される
- バス事業者やタクシー事業者においては、ドライバー不足や高齢化も課題

公共交通の利用方法に関する問題点・要望

- 施設利用者等への電光掲示板等によるバス運行情報の提供
- バスの行き先や遅延状況が分からないといった利用者の懸念
- 電子決済の導入や待合スペースといった利用環境の改善に関する要望

路線バスを主体とした路線網の構築

- 町内循環バスを主とした町民・別荘所有者の移動支援
- 路線バス・タクシー（ライドシェア含む）を主とした観光客等の移動支援
- 軽井沢駅、中軽井沢駅、信濃追分駅を中心とした交通結節性の確保
- 繁忙期等の混雑解消に向けたパーク＆レールライドの推進、混雑回避に向けた町内循環バスの再編・検討

公共交通空白地等に対する移動支援の検討

- 公共交通空白地に対する移動支援の拡充
- 地域性と生活行動圏を考慮した移動支援の向上

利用促進

- 生活利用のメリットや具体的な活用方法の浸透
- 運行事業の経費増加・人材不足等の解消に向けた周知・取組

利用環境の整備

- 利用方法や行き先といった運行情報の提供
- 遅延情報の提供
- 決済やバス待ちなどの利用環境の向上

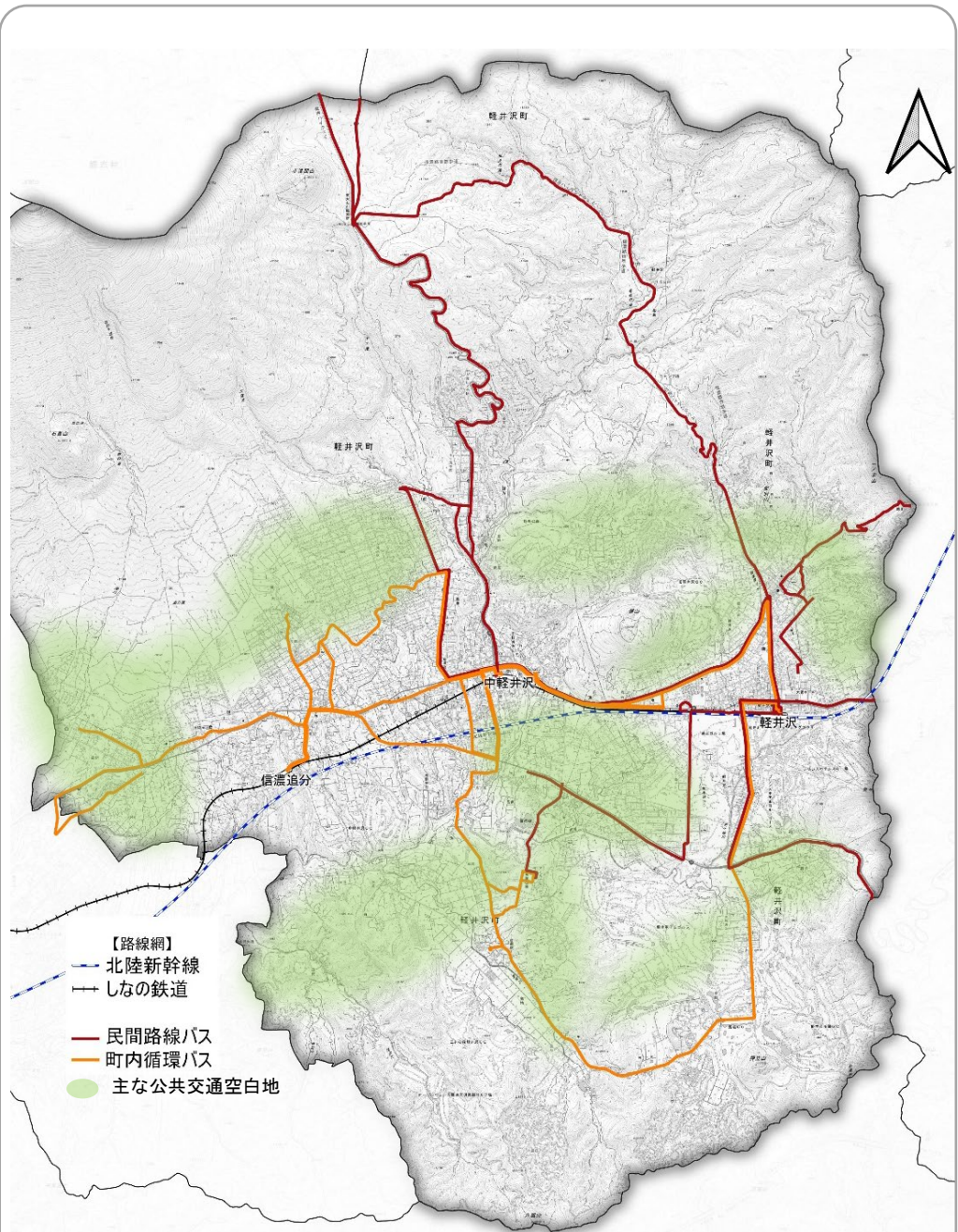


図. 軽井沢町の公共交通体系の検討の方向性